

# ICTによる「絆」への影響に 関する基礎的研究

## はじめに

本研究の目的は「ICT（情報通信技術）」が「絆」の形成や維持に与える影響を研究対象とし、問題点や課題の解決策を提示することであった。2015年の4月から2017年6月まで毎月研究会を行い、その成果と今後について議論してきた。本プロジェクトペーパーは、研究員全員の統一的な見解や回答を求めるのではなく、3年間の各研究員の研究成果を集めたものである。

花岡による第1部の「中高年のグループ活動と情報システム利用に関する事例研究」は本研究実施の開始点として位置づけられる。花岡が実際に複数の中高年のグループ活動に参加しており、中高年のQOL（Quality of Life）の普及の対応策を解明することを目的に、対象グループへのアンケートやインタビューを通して分析を行い、提言をまとめている。

福德による第2部の「絆に関する記事検索のテキストマイニング」は、本研究プロジェクトのタイトルにある「絆」の用語を明らかにしようとしたものである。具体的には「絆」、「きずな」に関する新聞記事について日経、日経産業、朝刊、夕刊、地方版の記事で検索をして「きずな」の用語にどのような単語と関係があるかについて、テキストマイニングを行った結果である。

錦織、福德、穂積による第3部の「男女別・年代別による絆意識の実証研究」は対象を大学生や勤労者に分けて「絆」感に対する意識調査のうち3つのアンケートについての分析結果である。

第4部は錦織により、第3部のアンケート分析のうち、絆の総合的構造についての分析を行ったものである。

尚、本研究プロジェクトの成果の完成を待たずに2017年12月19日にお亡

くなりになった故錦織孜先生の本研究プロジェクトへの多大なご貢献に感謝すると共に、ご冥福をお祈り申し上げます。